

第84回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)

堅実な走りで総合14位 襷つないだ217.9キロ

1月2、3日に第84回東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)が行われた。専大は2年連続のシード権獲得を目指して挑んだが、主力・座間紅柙(商4・藤沢翔陵高)は欠場。11時間25分37秒の総合14位(往路17位=5時間45分57秒、復路13位=5時間39分40秒)に終わった。

往路は4区で駅伝初出場の酒井潤一(経営2)が区間10位の力走で一時は15位まで巻き返したが、結局17位。この時点で先頭と10分以上の差がついたため復路は一斉スタートとなった。

気持ちをリセットして迎えた復路。8区でルーキーの五十嵐祐太(文1)が区間3位と、大健闘の走りで魅(み)せた。「襷(たすき)をつなぐことだけを考えていた。前を走る国士大の選手を目標にして、どんどん前に行くことができ、うまく走れた」とうれしそうに語った。

続く9区では前回アンカーを務めた木下卓己(商3)が区間5位で、専大を盛り上げた。

最終10区は柴内康寛(経営4)が積極的な走りで、ゴールテープを切った。「前の区間の2人の頑張りに刺激された。特に、五十嵐とは、体育寮で同部屋なので燃えた。初めての箱根駅伝だったが、走れて良かった。楽しく走れた」と興奮の冷めやらぬまま振り返った。

(久田 照喬・商1)

箱根駅伝全10区間の記録

※は専大記録

区間	氏名(学部学年・出身高校)	タイム	順位	チーム順位
1区	五ヶ谷宏司(経営2・専大松戸高)	1時間5分11秒	15	15
2区	井上直紀(商2・朝徳学園高)	1時間10分55秒	16	16
3区	嬉野純平(経営2・鎌早高)	1時間5分42秒	14	16
4区	酒井潤一(経営2・久里浜高)	56分41秒	10	15
5区	郷間章(法4・那須拓陽高)	1時間27分28秒	17	17
往路合計		5時間45分57秒	17位	
6区	米山昇吾(経済4・堀越高)	1時間1分00秒	10	17
7区	森脇啓太(商3・専大松戸高)	1時間8分25秒	19	19
8区	五十嵐祐太(文1・荏田高)	1時間6分37秒	3	17
9区	木下卓己(商3・堀越高)	1時間10分40秒	5	15
10区	柴内康寛(経営4・横浜高)	1時間12分58秒	14	14
復路合計		5時間39分40秒	13位	
総合成績		11時間25分37秒	14位	

ルーキー五十嵐が区間3位

来シーズンへ経験者7人

郷間章主将(法4)は「山登り」の5区を任せられ、箱根駅伝初出走。

主将として「練習面では座間が中心になってくれた。自分は精神面でチームを引っ張ろうと行動してきた」と話す。「とにかくシード権獲得という、結果を残したいとの思いが強かった。自分が順位を上げなくては行けないのに、情けない」と、大会後も表情は晴れなかった。しかし、「今回で、大学間の力はかなり拮抗(きっこう)していると感じた。この1年で1、2年次生が大きく成長した。次は絶対に予選会も通過し、来年こそシードを狙える」と、後輩たちに期待を寄せた。

加藤覚監督は「安定した走りができず、実力も足りなかった。だが五十嵐、木下をはじめ、下級生がすごくいい走りをしてくれたことは、必ず来年につながる。次は必ずシード権をとる」と、確信に満ちた表情で語った。

棄権が3校出るなど、波乱のあった今大会。シード権は落としたものの、堅実な走りで“襷”をつなげた。今回は予選会からの挑戦である。区間3位の五十嵐をはじめ7人の箱根経験者を中心に、この経験を生かし、さらなる飛躍を期待したい。

(松本 かおり・文2)

